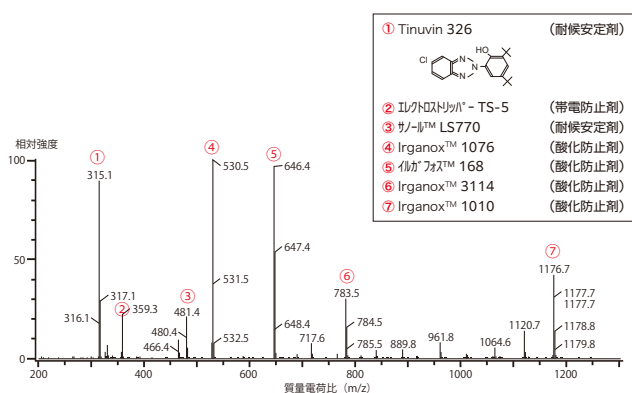


# 添加剤の総合分析

(株)三井化学分析センターは長年の経験、知見から添加剤分析を行っている。  
多くの標品および分析データベースを元にした迅速、高感度な定性・定量分析ができる。  
TOF-SIMS、ナノ IR 分析により、樹脂中の添加剤分布を把握することができる。

## ▶ 定性・定量分析

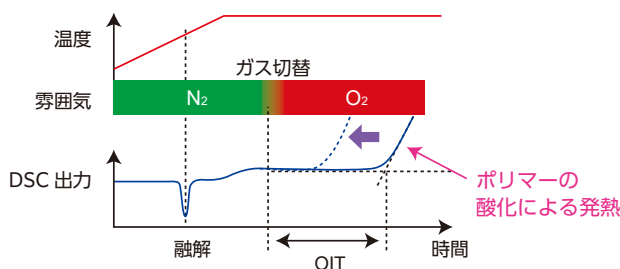
迅速、高感度分析 (例 FD-MS)



多くの標品および分析データベースを元にした  
迅速、高感度な定性・定量分析

## ▶ 酸化誘導時間(OIT)

(DSC)

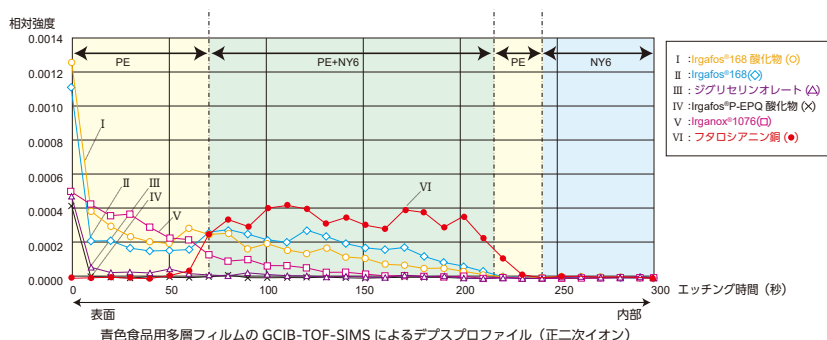


酸化劣化への耐性を相対比較する簡便な手段  
光、熱、水分への暴露により添加剤の有効量が減ると OIT が短くなる

## ▶ 樹脂中の添加剤分布の分析

### ① 深さ方向分析 (TOF-SIMS)

試料：多層フィルム

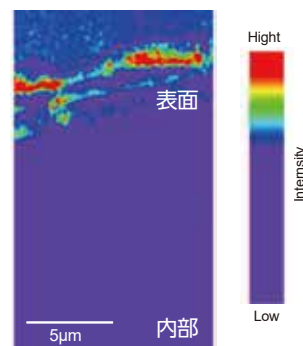


検出添加剤：イリガフォス 168、ジグリセリンオレート、P-EPQ、  
イリガノックス 1076、フタロシアン銅  
ブリードアウト：168 や P-EPQ、ジグリセリンオレートは  
表面ブリードアウトが顕著、1076 の  
ブリードアウトは少ない  
その他：フタロシアン銅は PE/NY6 層に存在し、NY6、  
PE それぞれの単独層には存在しない

### ② 浸込み分析 (ナノ IR)

試料：可塑剤浸込みポリスチレン

可塑剤由来の吸収強度分布の  
イメージング像 (断面)



可塑剤由来の吸収強度とその分布を色で  
表示した  
ポリスチレン板表面から 2 μm 程度まで  
可塑剤が侵入していること、表面に近い  
ほど可塑剤濃度が高いこと、また偏在し  
て分布していることがわかる

